



## ◁もくじ▷

○半島のじかん2018 in Tokyo開催報告	1頁	○協議会からのお知らせ	18頁
○ローカル10,000プロジェクトの御案内	6頁	○役員名簿	19頁
○本協議会・3協議会の動き	13頁	○会員市町村名簿	20頁
○平成29年11月9日理事会決定事項概要	14頁		

## 半島のじかん2018 in Tokyo ～インスタグラマー × 大学生 による半島の宝探し～ 開催報告

国土交通省 国土政策局地方振興課 半島振興室

国土交通省半島振興室においては、半島の様々な地域資源に着目した調査を実施し、その成果を広く共有する「半島のじかん」を毎年開催しています。本年度については、近年、自分らしい生活スタイルを求め、地方に積極的に移住する若い世代が現れている流れを踏まえ、インスタグラムを活用して半島地域の魅力を発見・発信する事業を行いました。

具体的には、本年1月から2月にかけて、人気のインスタグラマーと観光を専攻する大学生が、半島に実際に訪れて、インスタグラム投稿を行う現地調査を実施しました。さらに、その成果を報告し、多くの若者に半島への関心を持ってもらう方策を話し合うセミナー「半島のじかん 2018 in Tokyo」を本年3月に東京都内で開催しました。本稿では、これらの取組の概要をご紹介します。

### 1. 事前調査（紀伊半島）の実施について

まず、実際に大学生に半島に訪れてもらう現地調査のノウハウを得るため、1月上旬に事前調査を実施しました。本調査に協力してくれる関西在住のインスタグラマー sorayuchiさんと合流し、伊勢神宮外宮と鳥羽駅周辺を巡り、インスタグラム投稿のための撮影を行いました。これにより、撮影ペースや移動範囲、ご自身も被写体とする撮影スタイル、撮影許可の取付けなど様々なノウハウが得られました。また、撮影当日のみ終日雨となり、撮影への懸念がありましたが、sorayuchiさんはカラフルな傘をご用意していて、非常に魅力的な写真を撮影され、雨天の場合の備えとしても参考になりました。

さらに、様々な場所において思いがけずインスタ映えする撮影ポイントに巡り会い、こうした出会いを表現するには、SNSのデジタル的

な手法だけでなく、アナログ的な手法も有効と考え、sorayuchiさんが投稿・撮影した正方形の画像を複数組み合わせ、半島の魅力を表すポスターを作成し、学生にはインスタグラム投稿に加え、その作品例を参考にポスターを作成してもらうこととしました。(図1)



図1 半島女子旅ポスター作品例

## 2. 現地調査 (伊豆半島、房総半島) の企画、実施について

現地調査は、ご協力いただけるインスタグラマーや跡見学園女子大学及び東洋大学の学生の方々のご都合等を勘案し、伊豆半島と房総半島でそれぞれ1泊2日、できるだけ半島の先端部を含め訪問する行程で実施しました。(図2)



図2 現地調査の実施地域

### (現地調査① (伊豆半島) について)

伊豆半島については、インスタグラマー Hikariさんと跡見学園女子大学観光コミュニティー学部の村上ゼミの学生6名にご参加いただき、1月31日(水)及び2月1日(木)に実施しました。事前調査の教訓を踏まえ、本調査の趣旨に沿った撮影方法や冬期に野外活動するための服装等に関する注意点を含めた「調査のしおり」を念入りに作成し、本番に臨みました。

先週に発生した南岸低気圧の再来が懸念される中、初日はなんとか晴れ、下田駅から車で15分ほどの爪木崎公園からスタートしました。満開の水仙と灯台を撮影スポットと想定していましたが、Hikariさんのかけ声で、ひとけのない砂浜に6人が集合したところ、半島の風景を皆で楽しく独占するような写真が撮影できました。

また、最近注目を集めている竜宮窟(海岸浸食により形成されたハート型に見える地形)はもちろんのこと、途中の砂浜に立ち寄ったところ、たまたま一人が道路際にあるテトラポットに座り、6人で座ればもっとインスタ映えするのではとなり、楽しい女子旅の写真が撮影できました。(図3)



図3 吉佐美浜での撮影風景

その日の晩には、初日に撮影した自分のベスト5の写真とその魅力を各学生が発表し、Hikariさんからアドバイスをいただきました。2日目は、そのアドバイスを踏まえて撮影し、午前バスで南伊豆を周遊し、午後は小雨が降り出す中、パワースポットの白浜神社も訪問できました。

### (現地調査② (房総半島) について)

房総半島については、インスタグラマー

YURIEさんと東洋大学国際観光学部の島川ゼミの学生6名にご参加いただき、2月13日（火）と14日（水）に実施しました。2日間とも強風ながら快晴となりました。

まず始めに、インスタスポットで知られる南房総市の原岡棧橋を訪問したのですが、強風の中、思いがけず荒々しい波に囲まれて、雄大な自然の中で豪快な写真が撮影できました。また、一足早い菜の花畑やいちご狩りなどを体験するとともに、野島崎灯台では半島の先端部なら



図4 房総半島鋸山展望台にて  
(YURIEさん投稿写真より)

らではの見渡す限りの海、最後に訪れた鋸山の展望台では、半島ならではの、海のすぐ近くに迫った山からの眼下に広がる海、まちの風景を撮影できました。

(図4)

また、房総では、地域づくり活動の視察も行程に組み入れました。初日に訪問したシラハマ校舎は、閉校となった幼稚園・小学校の校舎をサテライトオフィス、レストラン、宿舎などに改修し、また校庭では二地域居住が可能となる「小屋」の建設・販売を行っています。2日目に訪問した茅葺き古民家ろくすけは、NPO法人が築180年以上の古民家を改修して、自然体験や農業体験の場として活用しています。どちらの施設についても、代表の方から、今あるものを手作りで地域の人たちとともに再生する取組について大変ご熱心に説明いただきました。

### 3. 半島のじかん2018 in Tokyoの開催

以上の現地調査の報告を含めた、半島の魅力発信セミナー「半島のじかん2018 in Tokyo」を3月6日（火）に、跡見学園女子大学（東京都文京区）の講義室で開催しました。現地調査に参加した両大学の学生、インスタグラマー

YURIEさん、東京と南房総で二地域居住を実践している馬場未織氏（NPO法人南房総リハビリック理事長）に加え、下田市、南房総市等の半島自治体関係者、大学生、NPO、マスコミ等総勢67名が参加しました。

### (第1部 伊豆半島及び房総半島の魅力の発見・発信)

まず、伊豆半島について跡見学園女子大学の学生より報告しました。最初のチームは、インスタ映えは若者向けPRに必要不可欠、女子大生目線で「いいね！」がもらえるのは、①人、②恋人、③鮮やかな色、④おいしそうな食べ物の写真であり、これらを意識したインスタグラム投稿とポスター作成を発表しました。投稿欄では、半島や訪問先などのハッシュタグを多く付け、「ほんとにほんとに盛りだくさんの一泊二日！極寒だったけど、大満足100点」とのコメントが印象的でした。二番目のチームは、「ここでしか体験出来ない#半島女子旅！」のコンセプトで、竜宮窟は恋愛パワースポット、まち歩きをしながら温泉体験、伊豆最南端のランドマークなどを投稿し、最初に訪れた爪木崎公園の砂浜で6人全員が映り込んだ写真を大きく取り上げた魅力的なポスターを発表しました。(図5)最後のチームは、伊豆では女子が好きなのかわいものがたくさんあるとして、ハート型や赤いものの写真を多く投稿し、「伊豆で咲き撮り」というタイトルで、ピンクの伊豆半島の縁取りにたくさんの写真を詰め込んだポスターを発表しました。

なお、Hikariさんは、本セミナーにはご欠席でしたが、今回ご投稿されたインスタグラムをご紹介させていただきました。



図5 伊豆半島のプレゼンの様子



次に、房総半島について東洋大学の学生から報告しました。最初のチームでは、古民家で一人たたずむ写真などを投稿し、「未来に残したい南房総半島」のタイトルで、古民家で談笑する写真を大きく取り上げたポスターを発表しました。二番目のチームは、荒波の原岡棧橋を突き進む後ろ姿の投稿に代表されるように、みんなの素の表情が撮れた最高の旅でしたとして、「素」のあなたが一番輝く 房総の女子旅」というタイトルでポスターを発表しました。(図6)最後のチームは、笑顔や花々があふれる#半島女子旅として、半島の山、海、花、そして笑顔に満ちたポスターを発表しました。



図6 房総半島のプレゼンの様子

さらに、本セミナーにも参加して下さったYURIEさんからも、ご自身で投稿されたインスタグラムを紹介いただき、元小学校の教室や設備を見事に活用して素敵な部屋やレストランに再生したシラハマ校舎に大変感銘を受けたことなどコメントをいただきました。(図7)



図7 YURIEさんのプレゼンの様子

## (第2部 トークセッション〜もっと半島を知ろう、もっと半島に行こう)

セミナーの後半は、馬場氏、YURIEさん、参加学生が一堂に会して、トークセッションを行いました。はじめに、馬場氏からキーノートスピーチとして、家族とともに自然の中で暮らすライフスタイルを求め、半島の先へ先へと進み、南房総に拠点を構えたこと、週末の田舎暮らしの様子、近隣住民との共同作業などについてご紹介がありました。

続いて、半島の魅力について語り合い、学生からは、伊豆半島については「冬でも花や美味しい食べ物が多くあり、一年を通して魅力ある場所」、「景色が広がっていてとても開放的」、「絶景を独り占めに出来て、時間の流れを贅沢に使える」、房総半島については「自然からの力、春を先取りして感じる事が出来た」、「緑、花、香りでリラックスして自分の素を出す事が出来た」、「地域の人から大変温かく迎えてもらった」といったコメントがありました。

YURIEさんからは、学生たちの写真はナチュラルで素が出ていて今のブームに合っている、自分の体の一部を取り込んだ写真は臨場感があり、その瞬間を思い起こさせてくれるといった学生の感性に共感するコメントをいただきました。

馬場氏からは、言葉では伝わらないものが一瞬で伝わる写真の価値、若い人達の視点の重要性に触れ、外からの視点が中の人間の気づきに繋がるといったコメントをいただきました。

また、今回の現地調査で訪れた自治体の参加者からは「これからは訪れた人達からの情報発信が大切であると痛感した」、「ポスターや写真を見ていると、地元の間でも行ってみたいと思えた」といったコメントをいただきました。

最後に、若い世代に半島への関心をもってもらう方策については、学生からは、「大学生は車は所有してなくても免許は持っている場合が多いので、半島に面白いものがあると分かればレン



図8 セミナー終了後の集合写真

タカーで出かける」「半島の地図にインスタグラムの写真をリンクさせ、どこにどんな魅力があるのか見える化する」、「ターゲットを絞って情報を発信。例えば大学のサークルの合宿の誘致、「景観を守り、カメラ女子によるインスタグラム投稿を増やす」、「車を運転しない女子にも優しい二次交通の整備」「半島内の高校生と半島外の大学生が協力して観光プランを作成」など大学生の視点によるヒントを多く発表してもらいました。

なお、受付で、大型のモニターにて、今回のインスタグラマーの方々が撮影した画像をスライドショーで流したところ、非常に素晴らしい画像が鮮明に次々と浮かび上がりました。このようなプレゼンも大変魅力的と思えましたので、付言いたします。

#### 4. おわりに

セミナーに参加していただいた方々へのアンケートの結果では、大学生にSNSを利用して情報発信してもらった今回の取組については、大変有効であるとの回答が7割を超え、残りの回答についても、有効であるという結果でした。また自由回答においては、傍聴された学生の方から、「半島のイメージを壊す「っぽくないもの」がたくさん溢れていて驚いた」、「日本でありながらそうでないような、私の知らない魅力が本当に多いことが分かった。もっと知識を深

めたい」、「半島だからこそ山・海の両方の魅力を感じることが出来る」、「それぞれの半島の特徴があり、実際に自分の足で確かめに行きたいと思った」など、今回のセミナーを通じて半島への強い関心を持ったコメントがありました。

今回の「半島のじかん」の取組については、これまでのアプローチとは視点を変え、若い世代の感覚で発見した魅力を誰もが手軽に

利用できるインスタグラムを通じて発信する取組を行っていましたが、参加した学生たちの笑顔や力作のポスター、アンケートの声から見て、大きな成果が得られたと思います。当室としては、今回のセミナーを含めた一連の取組をホームページで分かりやすく紹介していくとともに、いただいたご意見を活用しながら、今後とも半島の魅力の発見・発信に取り組んでいきます。当方のホームページは「国土交通省 半島振興」で検索ください。

また、本調査にご協力いただいたインスタグラマーの方の投稿は以下のサイトでご覧になれます。

- ・ sorayuchiさん (<https://www.instagram.com/sorayuchi/>)
- ・ Hikariさん ([https://www.instagram.com/\\_hikari\\_\\_\\_\\_/](https://www.instagram.com/_hikari____/)) (\*アンダーバーは前1つ、後5つです) .
- ・ YURIEさん (<https://www.instagram.com/yuriexx67/>)

最後になりますが、本調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。特に、事前調査の実施に当たり、鳥羽市の地産地消の市場・レストランである鳥羽マルシェ様に多大なご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。なお、本調査業務は、(株) J T B 総合研究所を通して実施しました。